





日光MaaS（環境配慮型・観光MaaS）によるモーダルシフト及び新たな旅のスタイルの構築による観光活性化

| | | | | | | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|------------------------|-------------------------|--|------------------|---|-------------|
| 取組開始時期 | 2021年 10月28日 | 取組の カテゴリー | ⑥交通システム・公共交通対策（環境対策含む） | 応募部門 （○を付ける） | | PF会員間連携部門 | ○ | 一般部門 |
|---------------|-----------------|----------------------|------------------------|-------------------------|--|------------------|---|-------------|

| | | | |
|---------------|----------------------|-----------------------|--|
| 1. 団体名 | (株) JTBコミュニケーションデザイン | 2. 連携先の 団体 | 日光地域における環境配慮型・観光MaaS事業推進 コンソーシアム (東武鉄道、◎栃木県、JTB、オリックス自動車、トヨタレンタリース栃木) |
|---------------|----------------------|-----------------------|--|

| | | | |
|----------------|--|------------------------|---|
| 3. 取組目的 | マイカーを利用した旅行形態から、MaaSを利用した公共交通へのモーダルシフトによる環境負荷低減及び、2次交通としてのEVカーシェア、充電インフラ導入によるMaaS自体の低炭素化を目指しつつ、インバウンド、高齢者等の利便性・回遊性の向上を目指す。 | 4. 関連する ゴール |     |
|----------------|--|------------------------|---|

5. 取組経緯

2018年より栃木県環境森林部環境森林政策課 環境立県戦略室主催による、日光EV推進連絡会議が定期的開催されており、その会合の中で、EVそのものの普及に限定するのではなく、地域課題であるマイカー渋滞やインバウンド対応、少子高齢化による地域公共交通の再生も含めたMaaSという概念を取り入れて、環境配慮型の観光MaaSを推進して行く事になり、その主要メンバーである東武鉄道とJTBコミュニケーションデザイン（JCD）が主体となって、事業立案を行った。

6. 取組概要（100字以内） ※ 1次選考にて、投票ページに掲載します

日本有数の観光地である日光において、**観光MaaSによる、世界中からの旅行者をターゲットとした、地域交通機関を利用した低炭素化の推進と、観光消費額拡大を同時に実現する。**

画像（会員投票の際のサムネイル）



JCD:2021年9月30日:リリースより:国内初の環境配慮型・観光MaaS「NIKKO MaaS」が10月28日サービス開始!

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

①環境に配慮しながら域内周遊回遊を促進し、消費の拡大を行う事で地域創生に寄与する。
②EV等の環境に優しいモビリティを導入する事で、将来的にはエネルギーの地産地消やバッテリーをDERとして活用する事によるBCP実行により地域創生に寄与する。

ステークホルダーとの連携

ゲートウェイ（1次交通/東武鉄道）と、それを補完するEVカーシェア（2次交通/トヨタ・オリックス+充電器/JCD）、移動の先の目的であること消費をJTBが取りまとめ、それらを日光MaaSでワンストップに提供する。栃木県は環境配慮型の観光地ブランディングを内外に広報しつつ、県民にも理念や取組を浸透させる。

モデル性・波及性

全国の観光資源である国立公園へ横展開が可能。日光MaaSのPFをSaaS型で提供し、共有基盤として運用する事で、導入コストや運用コストを下げると同時に、取得データの共有化や、商品の相互販売、相互送客、マーケティングに活用する事が可能。地域経済が潤い、国立公園の保全管理、生物多様性の保全へ繋がる。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

日光の現状

- 日光国立公園は、環境省が進める「**国立公園満喫プロジェクト**」の先行モデル公園の一つに選定
 - ✓ 世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化することを目指している
- 2021年4月には、環境省・農林水産省による「**国立公園×国有林の世界水準を目指した連携の推進**」の中で、日光地域は**誘客ポテンシャルの高い重点地域**に選定
 - ✓ 優れた自然の保護と利用の両立を世界水準で目指す取組みである
- 一方で、現状の日光地域は**マイカーによる観光客が7割以上を占めガソリン車によるCO2排出量の増加、渋滞や駐車場不足などの問題が深刻化**している

本事業（日光MaaS）による改善

- 日本有数の観光地である日光において、**観光MaaSによる世界中からの旅行者をターゲットとし、地域交通機関を利用した低炭素化の推進と、観光消費額拡大を同時に実現**することを目指す
- そのために下記のような仕組みを整える必要がある
 - ✓ 環境に優しい「モビリティ×観光アクティビティ」の一体的な訴求
 - ✓ With&Afterコロナ禍において、DX（デジタルトランスフォーメーション）や非接触（感染症対策）を考慮した仕組み

旅行者側【ライフスタイルの転換】・地元側【地域経済社会の変革】双方に**マイカー前提の観光からの転換を促すための一元的なシステム化**

日光MaaSの概要

環境に優しい「**モビリティ×観光アクティビティ**」を一体的に訴求し、オンラインで一元的に予約・決済できる仕組みを構築することで利用促進し、脱炭素化を実現する

